

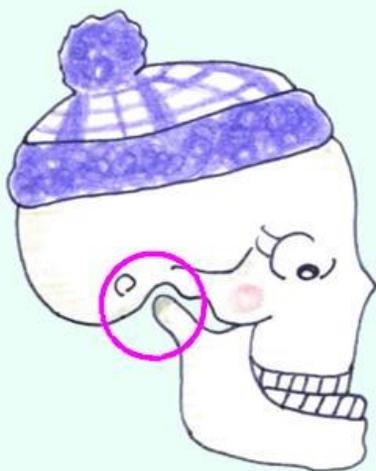


アゴのかんせつのしくみ こっかく編

不正咬合についてのお話が続いているけど、そもそも咬み合わせって何がどんな仕組みになっているのかな。

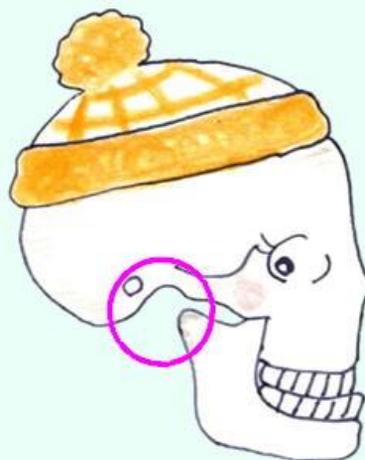
例えば咬み合せが正常な人でも、下アゴを前に突き出すと受け口のマネができるし、出っ歯の人が同じく下アゴを前につき出せば、前歯の咬み合わせは正常に見えたりするよね。

2人の受け口さん、本物はどっち？



● 骨格性の本物

受け口さんはこれ以上
下アゴは後ろに下がらない。



×

正常なのに下アゴを前に出して
受け口のマネ子さん

これらは人のアゴの関節の複雑な構造によるものなんだ。
という訳で、今回はアゴの動く仕組みについて説明しようね。

普通に咬んでいるときの顎関節



下アゴの関節(下顎頭)が頭の骨の関節(側頭骨の関節窩)に収まっている状態。

Kumagai Dental Clinic

口を開けるときの、顎関節はどう動く？



これは異常！

みんなこうだと思ってたんじゃない？
こういう人もいるんだけど、これは肉食獣の開き方で、人の場合では顎関節症などの病的な開き方なんだよ。



この開き方が正常

左右の下アゴの複雑な前後の動きによって右で咬んだり左で咬んだりすることができるんだ。

前にすべりながらひらくんだよ

Kumagai Dental Clinic

アゴの関節は、頭の骨の側頭骨というところの耳の穴のすぐ前のところにくぼみ（関節窩）があって、それに下アゴの突起(下顎頭)がはまっている構造。口を開け閉めする時、アゴの関節はカスタネットや蝶つがいの様に単純に開らいたり閉じたりするのではなくて、下顎頭が前後にすべりながら開け閉めする仕組みになっているんだよ。



人は穀物を臼歯ですりつぶすのに、左右どちらかの歯でこすり合わせるようにして咬む事ができるよね。

例えば右で咬もうとする時、下アゴは右側に動いていくでしょ。

その場合、右の下アゴ関節は前には動かずに反対側の左の下アゴ関節が前方に出るっていう仕組み。

だから片方の関節が前に滑り出ない場合(前方滑走不良)は、その反対側の歯では咬みにくいんだ。

つまり右で咬めないのは歯のせいばかりじゃなくて、左の顎関節の滑走障害が原因って事も多いんだよ。



Kumagai Dental Clinic

歯の形態と顎関節は、食べ物を効率よく咀嚼するのに適した組み合わせになっていて、肉食・草食・雑食動物によってそれぞれ特徴があります。

肉食動物では鋭くとがった歯とハサミの様に上下に開け閉めするだけの顎関節。馬・牛・鹿・ウサギなどの草食動物では、上下だけでなく、すりつぶせるように左右にもアゴを動かせる顎関節。

穀物、木の実を食べるモルモット、チンチラ、リスなどのげっ歯類では、主に前後に顎を動かします。

そして雑食である人は、上下・前後・左右へと広い範囲でアゴを動かす事のできる顎関節が特徴です。